

2025年4月29日 5:00

節目割れドル指数に「デッドクロス」 3年ぶり安値を示唆

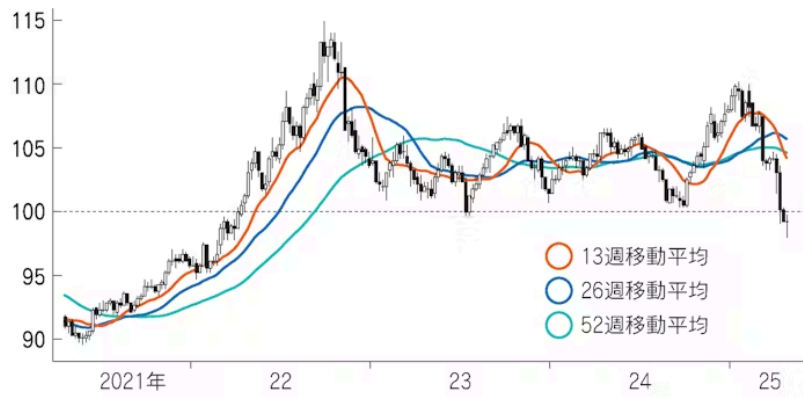
外為どっとコム総合研究所 神田卓也調査部長

[チャートを読む](#) [ストラテジー](#) [為替・金利](#)

ドルの総合的な価値を示す代表的な指数である、米[インターコンチネンタル取引所](#)（ICE）が算出するドルインデックスは、2023年以降下値のメドとしてチャート上の重要ポイントと見られていた100.00を4月11日に下抜けた。

トランプ氏が米国の大統領に返り咲いたことで、関税と減税が米経済の過熱につながるとの期待から2025年1月には2022年11月以来の109.966まで上昇していたが、実際にトランプ氏が大統領に就任した後は一転して下落した。

ドルインデックスは節目の100を割り込んだ



市場が想定していた以上に厳しい内容の関税政策が、結局は米国景気を押し下げるとの見方に傾いたことによる失望売りだ。

加えて、トランプ大統領が米連邦準備制度理事会（FRB）議長の解任を検討していると伝わったことが、中央銀行の独立性を脅かしたと受け止められたため下落に拍車がかかり、4月21日には2022年3月以来約3年ぶりの安値となる97.921まで下落した。

その後、トランプ氏がパウエル議長の解任を否定したことで、ドルはひとまず下げ止まったが、市場の「ドル離れ」がこのまま収束に向かうかどうかは不透明と言わざるを得ない。

ドルインデックスの週足チャート上には、13週移動平均線が26週と52週の各移動平均線を下抜ける「デッド・クロス」が出現。次の下値ポイントである2022年安値の94.660を目指して下値模索の動きが続く可能性もある。

なお、ドルインデックスは複数の通貨の動きを合成した名目実効為替レートの一つで、構成割合はユーロが57.6%、円が13.6%、ポンドが11.9%、カナダドルが9.1%などとなっている。ドルインデックスの下落はつまり、これらの通貨に対する上昇圧力となる。

年初来の為替相場で見られるユーロドルの上昇やドル円下落は、こうしたドルの価値の低下が主因であることがわかる。「トランプ売り」とも取

れる足元のドル安基調が続くかどうか。ユーロドルやドル円の方角性の力
ギを握っていると言えそうだ。



記事・写真等を許可なく複製・転載することはできません。

記事の閲覧には日経ヴェリタスの会員登録が必要です。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。